

指標の意義

高度な医療を提供するためには、画像診断をより早く、より正確に行う必要となります。放射線専門医によるCT・MRI検査の画像診断レポートが翌診療日までに作成された割合を表現する指標です。算式は画像診断管理加算2の算定要件（80％以上）とする。

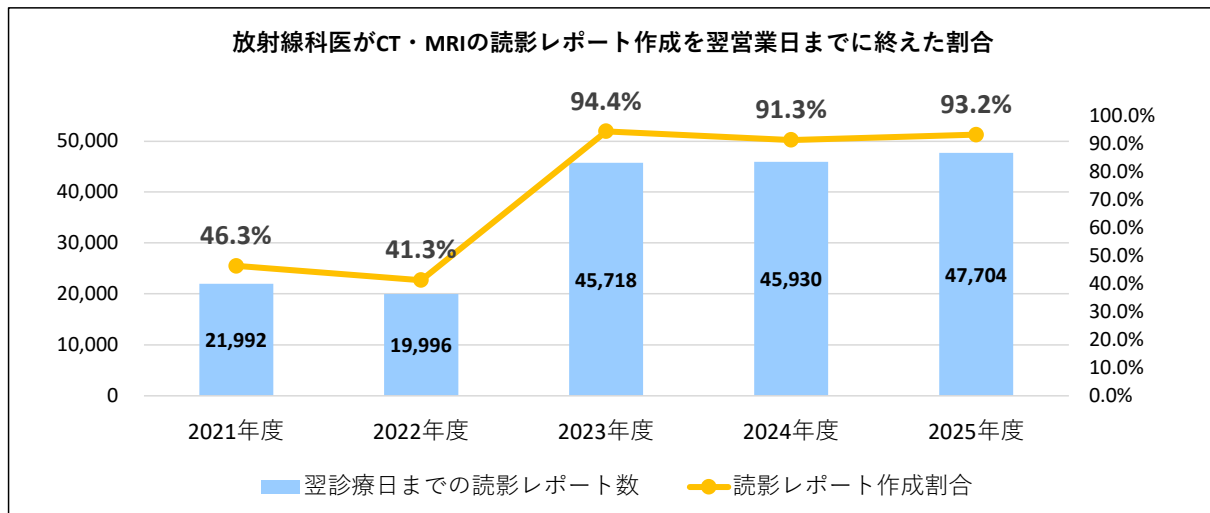
定義

分子 常勤・放射線専門医が検査翌診療日までに読影レポートを作成したCT・MRI検査読影件数×100

分母 CT・MRI検査数（ただし、検診は除く）

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
翌診療日までの読影レポート数	21,992	19,996	45,718	45,930	47,704	(件)
対象レポート数	47,502	48,464	48,464	50,281	51,194	
読影レポート作成割合	46.3%	41.3%	94.4%	91.3%	93.2%	



指標実績の分析・評価

2023年度に画像管理加算2の取得し、今年度も読影率90％以上を維持しています。

38 放射線科医が核医学検査の読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合

国立大学
病院

指標の意義

指標No.36と同様に、核医学・PET-CT検査における適切な画像診断がなされていることを表す指標です。常勤・放射線専門医による核医学・PET-CT検査の画像診断レポートが翌診療日までに作成された割合を表現する指標です。算式は画像診断管理加算2の算定要件（80％以上）とする。

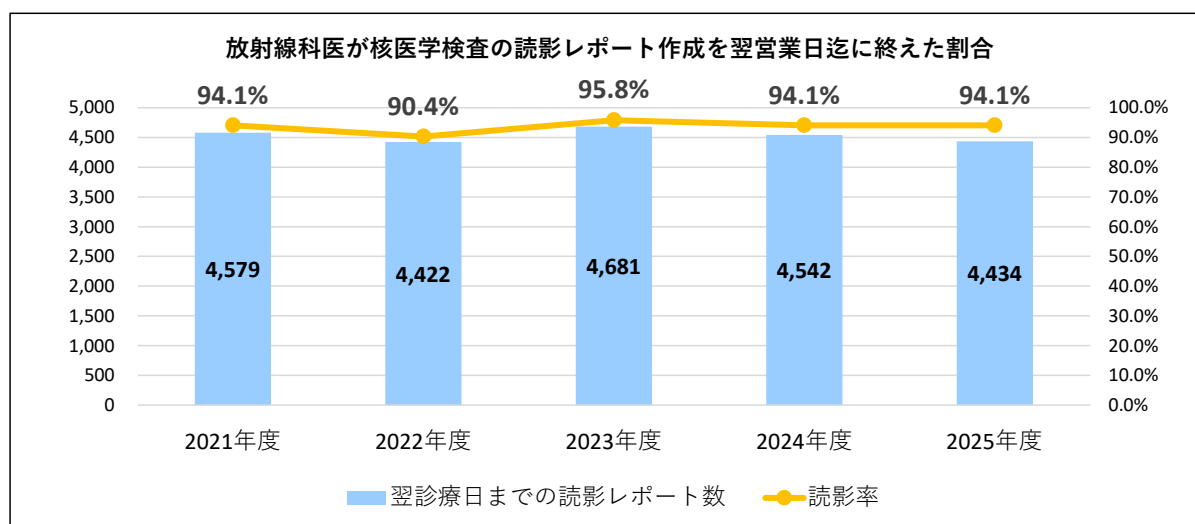
定義

分子 常勤・放射線専門医が検査翌診療日までに読影レポートを作成した核医学・PET-CT検査読影件数×100

分母 核医学・PET-CT検査数（ただし、検診は除く）

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
翌診療日までの読影レポート数	4,579	4,422	4,681	4,542	4,434	(件)
対象レポート数	4,867	4,893	4,885	4,828	4,710	
読影率	94.1%	90.4%	95.8%	94.1%	94.1%	(%)



指標実績の分析・評価

2023年度に画像管理加算2の取得し、それ以降は読影率90％以上を維持しています。

指標の意義

依頼医が、対象レポートを確認したかを示す指標です。既読管理対象レポートは放射線専門医が読影したCT・MRI・PET-CT・核医学検査レポートとする。

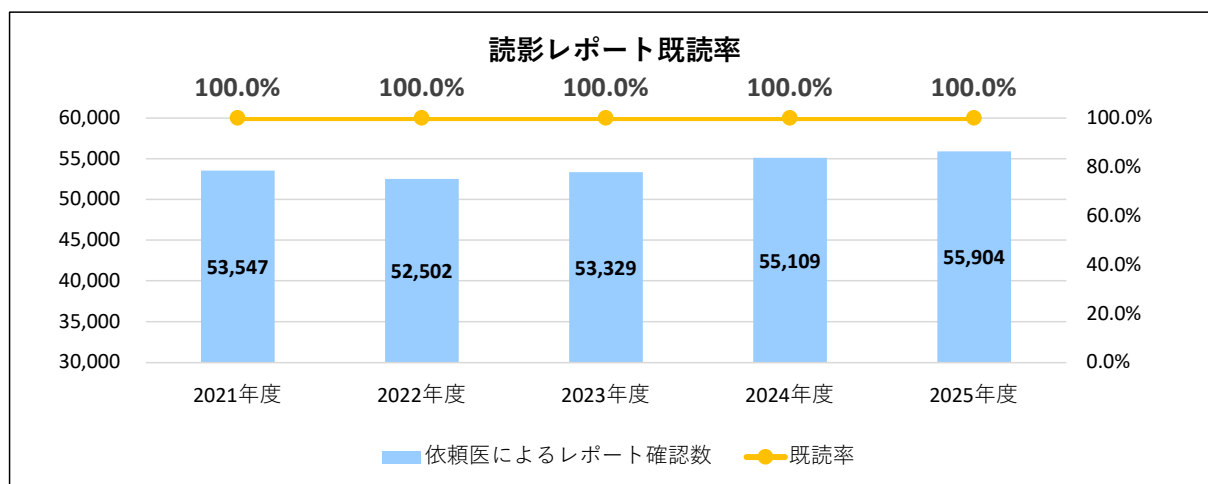
定義

分子 依頼医が読影レポートを確認した数×100

分母 既読管理対象レポート数

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
依頼医によるレポート確認数	53,547	52,502	53,329	55,109	55,904	(件)
既読管理対象レポート数	53,547	52,502	53,329	55,109	55,904	
既読率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	



指標実績の分析・評価

読影レポートの既読管理および未読者への通知は、電子カルテシステムにより自動化されている。既読管理業務においては、迅速な自動通知システムを構築していることに加え、最終確認段階では人の目による確認作業も実施しており、漏れの無い運用体制を整備しています。

また、既読確認は依頼医師のみに閲覧権限を限定するのではなく、退職者や長期休暇取得者への対応として、各診療科部長に代行既読の権限を付与しており、確実な読影レポート既読管理を実施できています。

40

病理組織診断件数

国立大学
病院

指標の意義

がんの正確な診断は病理診断により行われ、これに基づき的確な治療が選択されます。組織診断件数はがんの診療において、正確な診断が行われたことを示す指標となります。

定義

病理組織診断件数 = 生検検体数 + 術中迅速検体数 + 手術検体数

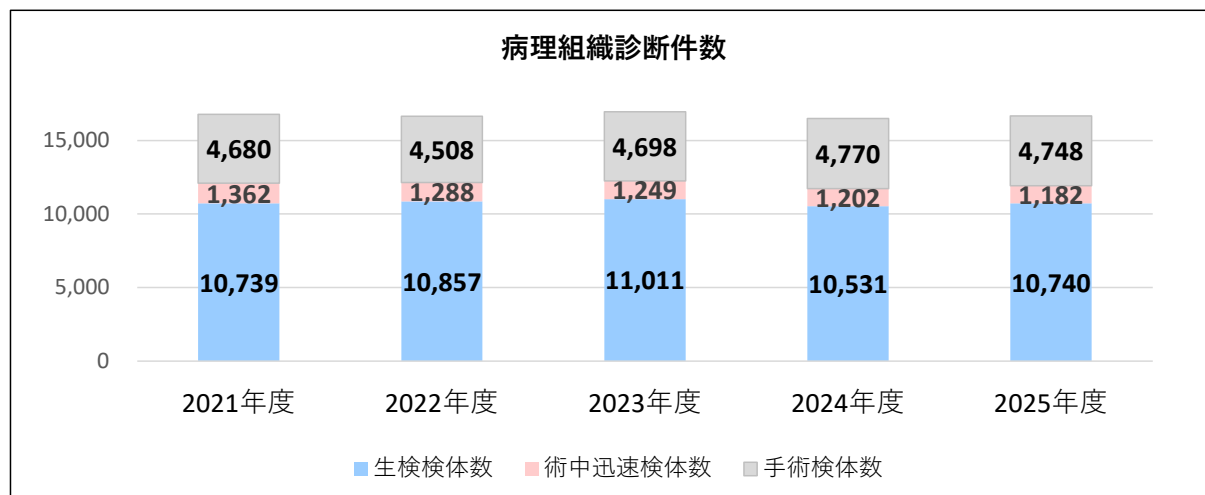
※生検診断は、組織の一部を採取して良性・悪性の判定や治療の選択をする（生検検体）

※術中迅速診断は、手術中にがんの広がりや転移の有無を診断する（術中迅速検体）

※手術検体の病理組織検査は、術後の治療選択のためにがんの悪性度や進行度を詳しく調べる

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	(単位：件)
生検検体数	10,739	10,857	11,011	10,531	10,740	
術中迅速検体数	1,362	1,288	1,249	1,202	1,182	
手術検体数	4,680	4,508	4,698	4,770	4,748	
病理組織診断件数	16,781	16,653	16,958	16,503	16,670	



指標実績の分析・評価

2025年度の病理検査数は過去4年間とほぼ同じで、内訳も大きな変動はありません。検査総数は国内のがん専門病院の中でもトップクラスにあり、病理診断を含めた精度の高い診断のもとに適切な治療が行われていることを示しています。組織検体は細胞や組織の形態診断だけでなく、遺伝子変異やタンパク質を見る分子診断にも使われるようになり、分子標的治療薬の選択にも多く用いられてきています。